

“皆さんは特別な天一国の勇兵です”

「第四期天一国青年宣教師特別 40 日修練会」

天一国元年（2013 年）に真の父母様の願いを受けてスタートした天一国青年宣教師の海外派遣が 4 年目に突入するのに先立ち、4 月 6 日から 5 月 16 日まで、全国から約 70 人の宣教師志願者を集めて「第四期天一国青年宣教師特別 40 日修練会」が千葉中央修練所（千葉市）を中心に行われました。今回の特別 40 修は、真の父母様の招請を受けて訪韓させていただくというこれ以上ない形で幕を閉じ、第一期特別 40 修の修了式以来およそ 3 年ぶりに真の父母様に直接お会いし、天正宮博物館で午餐を共にするという最高の栄誉に預かりました。修練生にとって天の限りない祝福の中での宣教出発となりました。

修練会前半、修練生たちは原理講義や信仰生活講座などのみ言教育を受けました。修練会の中ほどに宣教任地国を決めるくじ引きを実施。その後は、それぞれの宣教国について調査を始め、現地で活躍している宣教師とインターネット TV 電話で情報交換を行いながら、宣教地に関する知識を蓄え、心情を高めていきました。

今年の宣教地はアジア 2 カ国、オセアニア 1 カ国、北米 1 カ国、中米 2 カ国、南米 2 カ国、中華圏 2 カ国、東北大陸 1 カ国、ヨーロッパ 2 カ国、西アフリカ 1 カ国の計 14 カ国です。

任地国を決めるくじ引きを行った日の夜、徳野英治会長が修練所に駆け付けました。徳野会長は、自身の宣教体験を交えながら、宣教に関する具体的なアドバイスを贈りました。修練生たちにとっては、さらに決意して再出発する機会となりました。

修練会の後半では、語学研修などの外的準備を進めていきました。

特別 40 修も終盤に差し掛かった頃のことです。突然、「修練生訪韓」の一報が飛び込んできました。「お母様の願いに応えたい」「お母様をお支えしたい」という一心で海外宣教に飛び立とうとしていた修練生たちは、その多くが驚きと感動のあまりに涙を流しました。

また、特別 40 修期間中にお母様にお会いする機会のなかった二期生・三期生も招かれ、この恵みのニュースは急速に拡散していきました。



その後、田中富広副会長が再び千葉修練所に駆け付け、訪韓に向けて修練生を直接指導。天に対する姿勢を教育すると同時に、修練生たちのアイデアを吸い上げながら、訪韓時に真の父母様に捧げる出し物が最高の供え物になるよう準備をしていきました。

5 月 14 日、修練生たちが渡韓し、清平の清心ビレッジで「天一国青年宣教師訪韓特別研修会」が始まりました。その場には、これから宣教に出発する第四期生 61 人と、既に宣教地で歩んだ第二期、第三期

の天一国青年宣教師 70 人の合計 131 人が集まりました。

出し物の準備を重ねてきた四期生に二期生・三期生が合流。ともに出し物の練習を繰り返しながら、徐々に全体が心情的に一体化していきました。

そして 15 日、天正宮博物館において「真の父母様招請 日本天一国青年宣教師特別午餐会」が開催されました。真のお母様の願いに応じ、地球の裏側まで飛んでいく決意をした宣教師たち。真のお母様が

午餐会場に入ってくれた瞬間、彼らの目から喜びと感動の涙があふれました。

宣教師の映像上映、徳野会長の活動経過報告に続いて、3 人の宣教師が証しを行いました。遠い異国の地で真の父母様の愛を強く実感し、父母様を心から慕いながら歩んだという感動的な内容や、これから宣教にいく第四期生は、ずっとあこがれてきた宣教師として歩めることへの強い感謝と希望を証ししてくれました。
(3面に続く)

真のお母様と共に「ヘブン G バーガー」の食事をとった後、お母様がみ言を語ってくださいました。

その中でお母様は、フランスの王たちを命がけで守った「スイスの傭兵」を例に出されながら、「皆さんは特別な天一国の勇兵です」と指摘。「皆さんの行く道には、失敗があり得ません。皆さんがいる限り真の父母様の環境圏は健在です」と宣教師を強く激励してくださいました。

真のお母様は、宣教師たちを称えながら「名門家出身」という呼称まで下さり、宣教師たちはお母様の溢れる愛に圧倒されっ放しでした。

貴いみ言をいただいた後、宣教師たちが準備した出し物をお母様の前で披露しました。

最初の「無条件」では、赤いネクタイを締めたスーツ姿の男性 10 人が全力投入で歌って踊り、最後はお母様に向けて赤い花を捧げるポーズを決めました。

二番目の女性 11 人による「サランコッ（愛の花）」は、

オリジナルの踊りを交えながら披露。続いて、宣教師全体で孝行息子娘としての最高の心情を捧げながら「孝心」を歌いました。

最後の「群読」では、真の父母様に対する心からの感謝と世界宣教に出発する強い決意を表明しました。

会場は真の父母様を中心に強い一体感に包まれ、宣教師たちは最高の出発をする時間となりました。

午餐会後は、清心ビレッジで第四期特別 40 修の修了式が行われ、宋龍天全国祝福家庭総連合会総会長と徳野英治会長が総括のメッセージを語りました。夜には宣教師たちが集まり、午餐会の恩恵を全体で共有する時間を持ちました。

訪韓特別研修会を通して、第二期、第三期の宣教師たちは決意を新たに日本での歩みを再スタート。第四期生は、真の父母様の願いと愛を胸に出国準備を進め、6 月頃に任地国に向けて出発していく予定です。



①真のお母様からプレゼントを受け取る代表者 ②「愛の花」の歌に合わせて踊った女性メンバー ③「宇宙戦艦ヤマト」を日本語で歌う「アップルヘブン」 ④「無条件」を激しい歌と踊りで披露 ⑤出し物に拍手を送る参加者



真のお母様のみ言

未来世界を開く主役となれ



以下のみ言は 5 月 15 日、韓国・清平の天正宮博物館で行われた「真の父母様招請 日本天一国青年宣教師特別午餐会」において、真のお母様が語られた内容を日本語に翻訳し、整理したものです。

* * *

十分ですか？ もっと食べたいですか？ 確かに、皆さんの年頃には一つだけでは足りないでしょう。私は、半分だけ食べました。とても量が多かったのです。若いということは幸せなことですね？ 皆さんから見て私は何歳ぐらいに見えますか？ 皆さんたちの母として、世の前に誇りたくないでしょうか？

皆さんはスイスの傭兵という言葉は聞いたことがありますか？ 17 世紀にスイスという国は、現在、中立国として裕福な国の内に属しますが、アルプス山脈が非常に巨大であったために、今も同様ですが、寂寞とした地が、国の風土でした。暮らすのが大変です。冬には雪が多く降り、山々がすべて高い山々なので、人が暮らすには、平野が必要であり、そこで、田畑を耕し、食べて暮らさなければならないのに、スイスには山が多いので大変でした。それでスイスの男性たちは、環境に順応する生活をしなければならませんでした。ですから、多くの鍛錬になりました。

その当時、フランス革命が起きるのが 18 世紀だと思いますが、その時、フランスとルイ 16 世が自国の国民

2016 年 5 月 15 日 天正宮博物館



は信じることができないとして、それで、スイスに青年、傭兵を招請しました。スイスとしては、この傭兵たちによって、新しい文化、言うならば、とても貧しかった国で、この傭兵たちが稼ぎいれるお金で、スイスの工業が発達することができました。それで、今日の国内の工業の中で、時計が有名でしょう？ このような歴史が（あるのです）。スイスに行けば、傭兵たちの碑があります。フランス革命の時、最後まで一人として逃げず、フランスのために命を捧げました。有名です。

皆さんの名前は、青年特使ですか？ 我々統一家の真の父母様を中心として、新しい時代に、天一国時代を開いていく上で、皆さんは特別な天一国の勇兵です。どうですか？ 誇らしいですか？

皆さんの行く道には、失敗があり得ません。皆さんがいる限り真の父母様の環境圏は健在です。天一国の主役になることのできる、歴史以来、空前絶後の真の父母様を中心とする皆さんの姿は、後代の未来の世界において、スイスの傭兵に勝る、皆さんが未来の世界の後孫たちの前に誇らしい何ですか？ 天一国の青年特使。その次に、何をつけてあげましょうか？ 名門家出身。天一国の歴史において、主役であり、長きにわたって誇りある名門家出身になることができるのです。

その結果は、皆さんが生み出さなければなりません。ですから、私が地上にいる時に、皆さんの成功談を祝ってあげようというのが、皆さんの望みであり、私の願いでもあります。分かりますか？

そうしますね？ 私は皆さんを記憶します。



①特別 40 修の修了式で
②宋龍天総会長
③徳野英治会長
④田中富広副会長
⑤李成萬本部長



内外の準備を整え、世界へ雄飛



【修練生の感想】

み旨の為に全力で生きたと言える歩みを

「生涯このみ旨の道を歩みたい!」と本気で思えるように、信仰の明確化を目標に今回の宣教を決意しました。今、真のお母様が御存命でいらっしゃるこの時代に、何もしないのではなく、み旨の為に全力で生きたという証しができるような歩みをしたいです。そして私自身が成長し、後に続く二世三世たちを教育し、導く立場に立ちたいと思います。(ベナン K・T=男性)

任地国を与えられた喜び実感

任地国について調べていくにつれて、神様に対する感謝の気持ちが強くなりました。神様が愛してやまない国を与えて下さったという実感が湧いてきて、同時に愛情も湧いてきました。本当にこの任地国で良かったと感じています。与えられたチームメンバーにも本当に感謝です。(イギリス Y・I=女性)

み言を生命視して天の願いを果たしたい

任地国が与えられた今、私という通過体を通して成したい天のみ旨があるはずであり、救いたい息子・娘達がいるはず。だからこそ、私はみ言にすがり付きます。み言訓読を通して神様から訓練を受ける習慣を今のうちに身に付けていきたいと思います。(アルバニア K・K=男性)

限らない“母の愛”に触れ決意新たに

真のお母様が(午餐会の)部屋に入って来られた時、お母様とお会いできたことが本当にうれしくて涙が溢れました。お母様を見ているととても大きな愛を感じます。「私は愛されているんだ」と心が理解し、体が知らぬ間に感動していました。宣教師 3 人の証

しを聞いているお母様が涙をぬぐわれるところを見ました。その時にジワッと温もりを感じ、「お母さんだ」と感じました。もし、次にお会いする時は、私自身が希望の実体となってお母様の夢を達成し、笑って頂きたいと思います。(オーストラリア Y・H=女性)

お母様との約束を果たすため全力投球

今日のお母様の素振り、視線そしてみ言を語られるお姿を見て、「お母様は一人で戦っておられる。一緒に戦わなければ」と心から思いました。お母様と握手した時、僕の心はなぜかわからないけれど平和になりました。「お母様はまだ責任を果たしていない僕でも愛してくださっているんだ」と感じました。お母様の前に果たせていない約束がまだいっぱいあるので、それを成すために全力投球していきます。(パラグアイ K・S=男性)

お母様のみ言と神様の導きを信じて出発

(午餐会場に) お母様が入場された時には、初めてお会いできた喜びに自然と心からの笑顔が出ました。「ああ、お母さんだ。私のお母さんなんだ」とふわっと心が浮き上がるような感覚でした。み言も語って下さり、「お母様が祝福してくださったんだ! 歴史上の中心人物たちのように!」と思うと、これほどに愛されていることに涙が止まらず、滝のように流れました。お母様の「皆さんの行く道に失敗はあり得ない」というみ言を信じ、絶対に神様が導いて用いて下さるという心情で VISION2020 に向かっていきます。(マレーシア M・O=女性)



①開会式後に全体で記念撮影
②祝福の意義と価値を講義する中村惣一郎講師 ③現代の摂理について語る可知雅之講師 ④信仰生活講座を担当した内田由喜夫人 ⑤任地国を決めるくじ引きをする修練生 ⑥チャート式原理講義の演習をする修練生 ⑦インターネットで任地国の情報収集 ⑧足柄山(神奈川県)で行った野外訓練の期間中、力を合わせてカレーを作る修練生

日々新しく、“私”が変わっていきこう！

宋総会長ご夫妻が山口、北海道を訪問



- ① 鉏路家庭教会でメッセージを語る宋総会長（5月21日）
- ② 区域訓読集を定期的に継続している山口・萩の区域長宅で（同19日）
- ③ 宋総会長のメッセージに耳を傾ける食口たち（同22日、帯広家庭教会）
- ④ 「松下村塾」跡で祈りを捧げる宋総会長一行

5月後半、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長ご夫妻は山口教区（5月18～20日）と中央北海道教区（同21、22日）を巡回し、地元の教会を訪れ食口一人ひとりに愛を投入しました。その中から今回は、鉏路家庭教会訪問の様子を紹介します。



5月21日（土）、鉏路家庭教会で特別集会が開催され、約80人の食口が宋龍天総会長ご夫妻を熱烈にお迎えしました。

特別集会では、宋総会長ご夫妻を歓迎し、聖歌隊が「愛を探して、人生を探して」を合唱用にアレンジして讃美しました。この曲は、移動中の車の中で宋総会長が真のお母様と一緒に40回繰り返して歌われたという曲ですが、宋総会長ご夫妻はとても喜び、「全国周った中で一番の聖歌隊だ」と高く評価しました。

安田公保・第1地区長の歓迎の言葉、李海玉総会長夫人の挨拶に続き、宋総会長がメッセージを語りました。その中で宋総会長は、「本当の奇跡とは内的な奇跡、

心の奇跡です。家庭連合時代は、私の家庭が家庭天国を作っていくのであり、そのためにはまず“私”が変わっていきましよう」と強調。「私の座右の銘は『毎日新しく、瞬間瞬間に新しく、更に新しく』です。目に見える人を愛することが出来ない人は、目に見えない神様を愛することは出来ません。これからは天が日本に祝福を与えていく時です。出会う人すべてに祝福と天運を授けていきましょう！」と訴えました。途中歌を交えながら完全投入する宋総会長の姿は、まるで真のお父様が直接愛を投入してくださっているようで、真の愛の雰囲気にも包まれる感動的な時間となりました。

集会後、宋総会長ご夫妻は家庭ごとに参加者全員と記念写真を撮影。最後まで食口一人ひとりに愛と誠を尽くしてくださいました。

その後の食事会で、宋総会長ご夫妻は基台長やCIG復興団メンバーなどの報告に熱心に耳を傾けながら、摂理の最前線で歩むメンバーたちを慰労。参加者の多くが感謝と感動の涙を抑えることができませんでした。

壮年は氏族伝道原動力となれ

徳野会長が第7地区、東神奈川教区、世田谷家庭教会で特別集会



- ① 第7地区の壮年集会でメッセージを語る徳野会長（5月12日）
- ② 徳野会長のメッセージを聴く第7地区の婦人メンバー（同13日）
- ③ 歌とダンスを披露する東神奈川教区の青年たち（同18日）
- ④ 世田谷家庭教会の青年集会の参加者（19日）

金沢で壮年・婦人特別集会

5月12日、金沢家庭教会で徳野英治会長を迎えての「7地区壮年特別集会」が、翌13日に「7地区婦人特別集会」が行われました。7地区の石川、岐阜、富山、福井教区から「壮年特別集会」には約190人の壮年食口が、「婦人特別集会」には約350人の婦人が集いました。

講演した徳野会長は、今回の集会のために東京から金沢まで来る新幹線の中で、隣席の婦人が会長と同郷であったことから話が弾み、「伝道できる貴重な人と縁を結んだ」と証しました。その上で、「壮年が動かないと親戚が動かない」と氏族伝道における壮年の重要性を強調し、参加者を激励しました。

翌日の婦人集会では、徳野会長は「家庭連合の最大のブランドである祝福結婚を進めてまいりましょう」と訴えました。

それぞれの集会は、参加者に大きな恩恵と強い決意もたらすものとなりました。

東神奈川教区と世田谷家庭教会で青年集会

横浜家庭教会で5月18日、徳野英治会長を迎えて「東神奈川教区 特別青年集会」が行われ、約120人の青年と、

各教会の牧会者と婦人代表が参加しました。

はじめに横浜青年部による合唱と、「無条件」のダンス、二人の姉妹による歌で、徳野会長を歓迎。盛り上がった中でメインの集会が始まりました。

徳野会長は講話の中で、①国際人になること②夢を持つこと③真の父母様を中心とした信仰の確立④祝福結婚——の4点を強調しました。

参加した青年らは、徳野会長の講話や姿を通して、真の父母様の愛と期待を実感し、「心をつなげてお母様をお支えしていこう！」と決意する場となりました。

翌19日には世田谷家庭教会で、世田谷青年部、南東京教区などから100人のメンバーが集まり、徳野会長を迎えての「青年部巡回集会」が行われました。

世田谷青年部の音楽バンドの力強い演奏、ダンスグループの華麗なダンスが披露され、熱気が覚めやらぬ中、集会の開会となりました。

講話を行った徳野会長は約1時間50分語った後、参加者全員と握手をし、別れを惜しまれつつ会場を後にしました。

教会から足が遠のいていた祝福二世も参加し、これから継続的につながる切っ掛けの場となりました。

全国の霊園と連結し「全日本聖和祝祭」

前日には「日本開拓の碑」除幕式



- ①素晴らしい天候に恵まれた全日本聖和祝祭
- ②説教を行う徳野英治会長
- ③献花をする聖和者の遺族
- ④会場を魅了した南千葉成和学生鮮鶴合唱団



5月22日、快晴に恵まれた尾瀬霊園（群馬県片品村）において、第34回「全日本聖和祝祭」が執り行われ、日本全国から約2000人が集まりました。

今回の式典は、本郷殿（静岡県）、中日本霊園（三重県）、大阪平和霊園、高知霊園、九州霊園（福岡県）と連結して行われ、全国の教会でもインターネット中継を通じて、多くの教会員が式典に参加しました。

午前10時半から行われた第一部のエンターテインメントでは、南東京教区世田谷教会所属の男性シンガーソングライターが、自作の2曲と愛唱歌「勝利の日まで」をギターの弾き語りで演奏。続いて南千葉成和学生鮮鶴合唱団が3曲を透き通った歌声で合唱しました。

平井利明総務局長の司会により始まった第二部の聖和祝祭では、全体で黙祷を捧げた後、太田朝久さん（6000双）の代表報告祈祷、主礼の徳野英治会長ご夫妻による中央祭壇への献花がありました。

尾瀬霊園の戸丸廣安園長からは2015年度の年次報告をはじめ、尾瀬霊園の足跡、年間入園者数などの報告

がありました。また、式典前日に行われた「日本開拓の碑」除幕式の様子にも触れ、参加した西川勝先生ご夫妻には会場より大きな拍手が送られました。

徳野会長は説教の中で、1400人の聖和者への慰労と感謝の言葉を述べた後、「真の父母を愛し、伝えようと思うなら、神氏族メシヤの使命を果たさなければなりません」との真のお母様のみ言を紹介。私たち祝福家庭が、霊界の先輩家庭と共に、伝道の勝利を強く決意し、真の父母様の夢・悲願である「天一国」創建に向かって邁進することを力強く訴えました。

続いて、昨年聖和した聖和者家族代表による献花、全体祈祷の後、尾瀬聖和家庭会の阿部知行理事長が「『日本の情は忠孝の源』と真のお父様は語られました。真の愛によって結ばれた兄弟姉妹として、これから心をつにしていきたいと思います」と述べました。

最後に徳野会長の祝祷、斐夢周第4地区長の億万歳四唱で式典は閉会となりました。

熊本地震の犠牲者追悼と被災地の早期復興を祈願

大分で「自叙伝 心の書写大会」



- ①講話を行う浅川勇男先生
- ②追悼祈願文を読み上げる川原馨大分教区長
- ③会場で書写を行う参加者
- ④フルーツセットを受け取る新規参加者

5月17日、大分市内の会場で、「自叙伝心の書写大会—『熊本地震』犠牲者追悼及び被災地復興祈願」が開催され、平日にもかかわらず約350人の書写会員が集まり、犠牲者の冥福とともに、今なお続く余震の鎮静化と被災地の一日も早い復興を祈りました。

オープニングとして、男女混成合唱団「モサラン」が「ふるさと」など2曲を披露。参加者全体で犠牲者に黙祷を捧げた後、真の父母様に敬拝して大会が始まりました。

最初に、熊本地震の災害状況をスライドで上映。参加者は今回の地震被害のものすごさを再認識しました。

続いて、「清心塔」を中心としてろうそくと花に彩られた祭壇の前で、川原馨大分教区長が犠牲者への追悼祈願文を真心を込めて奉読。

引き続き、浅川勇男先生が「愛天愛人愛国」と題して

講話を行いました。

その中で浅川先生は、これまでの人生で経験した数々の地震の体験談を述べながら、自叙伝書写が5年前の東日本大震災を契機に始まったことに触れ、書写の意義と価値を改めて強調。その上で、「このような時代こそ、文鮮明先生の教育理念である『愛天愛人愛国』の生活実践が必要なのです」と訴えました。

書写奉納・伝授式では、書写会員がこれまで毎日書いてきた書写に加え、犠牲者追悼と被災地復興の祈願書写を合せて奉納。その後、今月のみ言「愛天愛人愛国」を参加者全員で書写しました。

最後に、大会恒例のイベントとして、浅川先生が新規の書写会員にフルーツセットを手渡しでプレゼント。大会は、会場からの温かい歓迎の拍手とともに幕を閉じました。

若者が“救国救世の主人”として立ち上がる

UNITE が全国展開、6 月には一斉演説も



- ①神戸・三ノ宮駅前街頭演説（4月29日）
- ②大阪駅前に集まった多くの聴衆（4月29日）
- ③名古屋駅前に集まった「UNITE AICHI」のメンバー（5月15日）
- ④金沢市の繁華街で街頭演説（5月22日）



東京大学の4人の学生によって今年1月に結成された「国際勝共連合 大学生遊説隊 UNITE^{ユニタイト}」。その後、UNITE の活動に共鳴した大学生・青年たちが日本各地で UNITE を結成し、演説活動をスタートさせています。

3月末に福岡市内で「UNITE FUKUOKA」の結成集会とデモ行進が行われて以降、ツイッターを中心に保守的な一般の人々から UNITE の活動を支持し激励する投稿が増加。着実に UNITE に対する理解と好意的な反応が広がりつつあります。

4月9日には、大阪市内で「UNITE KANSAI」が結成され、天王寺駅前での初の演説を行いました。「UNITE KANSAI」は同29日には大阪駅前で神戸・三ノ宮駅前で演説を実施。大阪駅前には一時、100人を超える聴衆が集まりました。

5月13日には札幌で「UNITE HOKKAIDO」が、15日には名古屋で「UNITE AICHI」が結成され、それぞれ初の街頭演説を行いました。

また、北陸の金沢や富山においては、青年を中心とし

た遊説隊「Youth UNITE」が結成され、5月22日には金沢市内の繁華街で、29日には富山駅前で街頭演説を行いました。

同じく5月29日には、“若者の街”東京・渋谷で、200人を超える都内の大学生・青年たちが集結し、「憲法改正」や「安保法制」賛成を訴えるデモ行進を実施しました（詳細は次号）。

6月には、7月の参議院選挙を見据え、上半期の UNITE の活動の集大成として、国内20カ都市以上で UNITE 一斉の街頭演説が2度予定されています（6月12、21日）。

左翼的な学生団体 SEALDs^{シーアルズ}は、7月の参院選後に解散すると明言していますが、UNITE は7月以降も演説活動を継続していきます。UNITE を通じて“救国救世の主人”として立ち上がった大学生・青年たち。UNITE の快進撃は、これからさらに加速・加熱していくことでしょう。

広島夫婦拉致監禁事件で民事提訴

背景に事件再発の懸念



5月16日、広島市内で行われた記者会見（左から、近藤徳茂法務局長、福本修也弁護士、鴨野守広報局長）

夫婦で同時に拉致監禁・脱会強要された広島県在住の世界平和統一家庭連合の教会員が5月16日、事件に関わったキリスト教関係者や親族らを相手取って、損害賠償約700万円を求める民事訴訟を広島地裁に起こしました。同日、原告代理人と教団関係者が記者会見を開き、明らかにしました。

2014年7月26日、夫婦は広島市内でそれぞれの親族らによって別々に拉致された後、大阪市内の同じマンション5階に連行されて監禁されました。

妻は、子供2人（長女8歳、長男3歳＝いずれも当時）を連れて広島市内の実家に帰省中、親族らによってタオルで口を塞がれ、両手両足を縛り上げられた上で寝袋に押し込まれるという極めて暴力的なやり方で拉致され、ワゴン車で大阪に運ばれました。夫も親族に騙されてワゴン車に乗せられ、大阪まで連行。夫婦は子供2人から無理やり引き離されたのです。

夫婦が監禁されたマンションの玄関ドアは、特殊なチェーンと南京錠によって二重三重に厳重に施錠され、窓の開閉も自由にできない状態。そこにキリスト教神戸真教会（神戸市）の高澤守牧師や西日本福音ルーテル教会「青谷福音ルーテル教会」の尾島淳義執事が現れ、夫婦に脱会を迫りました。

監禁6日目を迎えた31日未明、妻が隙をみて親族の

携帯電話で警察に通報。夫婦はおよそ10分後に駆けつけた警察官らの手で解放されました。

夫婦は14年11月、事件を主導したとみられる高澤守牧師らを広島西警察署に刑事告訴。ところが、高澤牧師が翌15年に自殺したこともあって、事件は不起訴処分となりました。

事件関係者らの法的責任が問われず、このままでは再び拉致監禁される恐れがあることから、夫婦はこの度、民事提訴に踏み切ったのです。

拉致監禁事件に関して、家庭連合（旧統一教会）信者が起こした民事裁判は19件にのぼり、今回で20件目となりました。

家庭連合信者に対する拉致監禁を手段とした脱会強要事件は1960年代後半から始まり、これまで約4300人の信者が被害に遭ってきました。昨年9月には、12年5カ月にわたって監禁され脱会強要された後藤徹氏が最高裁で勝訴し、拉致監禁の悲惨な実態が広く社会に認識されました。

一方、12年7月には、国連欧州本部（スイス・ジュネーブ）の自由権規約人権委員会が、日本で行われている「新宗教信者に対する拉致監禁強制的棄教活動」について懸念を表明。日本政府に対し、権利保障のために有効な手段を講ずべきであるとの勧告を行っています。